



事故のない「安心・安全なまち」づくり

秋も深まり、夕方にはとつぷりと日が暮れるようになりました。日没が早いこの季節は、交通事故が多発する時期とも言われています。今回は、誰もが起こしたくない、遭いたくない交通事故について、市内の現状と、自分でできる予防と対策などについて特集します。



交通死亡事故 “0”を目指して

ゼロ

倉吉市内の交通事故

鳥取県警の統計資料によると、倉吉市内における交通事故件数、および負傷者数は、近年ともに減少傾向にあります。

平成18年の事故件数293件に対し、平成23年は126件と、約4割も減少しています。

減らない死亡事故

一方で、交通事故による死者数は減少していません。

平成20年は1年間、倉吉市内の交通事故死者数0だったという素晴らしい記録があります。しかし、翌21年では4人、22年は3人、昨年も3人の尊い命が事故により失われています。

また、今年においては、9月末時点で、すでに死者3人と、昨年を上回るペースで死者数は増えています。



【危険な車道の横断】

片側2車線、交通量のとても多い道路を横断しようとする人たち。どちらも、すぐそばに横断歩道と信号機があるにもかかわらず、車道を横断しようとしています。道幅が広く、車の量も多いので、とても危険です。「私はよく確認しているから大丈夫」は禁物です。でも、実は、あなたも同じように車道を横断したことはありませんか…？

あっ、危ない!!



日常的な交通ルール違反

今回、交通安全についての特集記事を作成するにあたり、市内のさまざまな道路で写真撮影を行いました。

とある交通量が多い道路で、カメラを構えた時、担当者は驚くべき光景を目にしたのです。

片側2車線の広い道路を、すぐそばの横断歩道を利用せずに、横断し始める高齢者が…。歩道と車道の間にはガードレールがあるにもかかわらず、それを超えて、スピードを出して走る車の間を頼りなげに渡っていきます。ドライバーは、車道の人影に慌ててブレーキを踏んでいました。何ともヒヤリとする光景でした。

「これは滅多にあるケースではないだろう」。そう気持ちを切り替えた担当者は、車で移動し、別の場所での撮影に入りました。

すると、今度は、先ほど以上に広い道幅の片側2車線の道路を自転車でゆつくりと横断する人が…。車はひっきりなしに左右から走ってきます。「すぐそばに、点滅式横断歩道があるの

に、なぜそこを横断するのだろうか」。担当者は、ハラハラしながら自転車を見送りました。もしかしたら、この人たちは、「いざとなったら車は止まってくれる。私は大丈夫」と思っているのかもしれない。もちろんドライバーも人を轢きたくはないし、轢いてはいけなくて止まろうと努力はします。でも、このようにあまり想定していない非常事態では止まるに止まらないこともあります。

甘い考えで、起こってしまう悲しい事故。あなたは交通ルールを守っていますか？

—こんな交通死亡事故が起こっています—

今年、倉吉市内で発生した、交通死亡事故の一例をあげています。何が原因で、どうすれば良かったかを皆さんも考えてみましょう。

【ケース①】雨降りの中での不注意

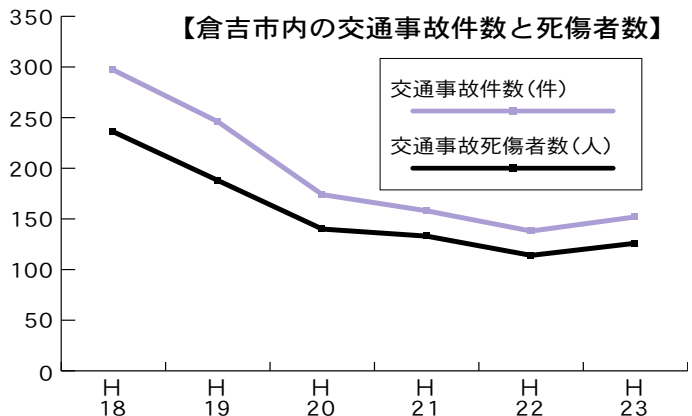
6月下旬の午前中、Aさん(高齢者)は手押し車を押しながら、信号のある横断歩道を横断中、交差点を右折して進入してきたBさん(高齢者)が運転する軽トラックにはねられました(信号の状況は調査中)。現場は片側2車線の広い道路で、事故当時は雨が降っていました。

【ケース②】信号無視

8月中旬の夕方、Cさん(高齢者)はゆるやかな勾配のある片側1車線の道路で、信号のある横断歩道(事故当時赤信号)から約10m離れたところを横断。Cさんの左側から走ってきた普通乗用車と衝突しました。

これまで事故が起こったことのない場所でもあり、地元住民も「なぜこんなところで…」と語っていました。

【倉吉市内の交通事故件数と死傷者数】





高齢者から見た高齢者の交通マナー

自分を過信しないで、余裕を持って行動を

高齢者の死亡事故が多いことについて、倉吉市交通安全協会の山下慶久よしひささんにお話をうかがいました。



倉吉市交通安全協会会長
山下 慶久 さん

Yoshikisa Yamashita

私も今年で77歳になり、自分自身も高齢者です。それもあつてか、高齢者の死亡事故のニュースを聞くたびに、何とも言えない気持ちになります。私と同じ高齢者に伝えたいのは、「気分は若くても、実際には思っているほど機敏に体は動かない」ということです。

地域交通安全講習会では、車は1秒で6m進むと教えられます。ですから、20m先の車は3秒程でこっちに来るようになります。自分では3秒あれば道路を横断できると思っても、実際に横断してみると5秒以上かかってしまいます。そんなときに、ドライバーが脇見をしていたら、もうそれで交通事故になるわけですね。

それと、高齢者は交通安全に対する意識の低い人が、まだまだ多いですね。特に、80歳以上の人は、若いころに、今のような車社会を経験していませんし、運転免許証を持っていない人も珍しくありません。そうすると交通ルールを学習する機会が少なかつたものですから、どうしても正しい交通ルールが身に付いていない。私を含めて、高齢者は自分で思っている以上に体が動きませんから、道路は、時間と心に余裕をもって横断してください。そして、ドライバーの皆さんも、道路で年寄りを見かけたら、いつヨロヨロと横断し始めても対処できるよう、意識して減速するなどしてもらえたらと思います。

それと、特に高齢者には、地域の交通安全講習会に積極的に参加して欲しいですね。各町内でやっていますが、私が住む地域だと茶菓子なんかも用意して、地域の情報交換をしながら和気あいあいとした雰囲気ですの楽しいですよ。こういった活動で、活き活きとした高齢者を見かけるとうれしくなりますね。

私は、長年、交通安全協会の会長を務めさせてもらっていますが、こうした活動を通して、交通事故が1件でも減ることを日々祈っています。

ち 近くても危険がいっぱい

歩行中の事故の多くは、自宅近くで起きています。



く 車の運転はゆとりをもって

年齢に応じた、ゆとりある運転をしましょう。



わ 渡るときにはしっかり確認

横断時の交通事故防止のため、しっかり左右を確認しましょう。



バスドライバーに聞く運転の注意点

油断をしないで、ゆとりを持って運転を

倉吉市内の交通事情について、プロの運転手、日ノ丸自動車の矢田仁志さんと田中正博さんにお話をうかがいました。



日ノ丸自動車(株)
田中 正博 さん

Masahiro Tanaka

予測できない横断

(矢田) バスを運転中に特に気をつけなければならないのは、「自転車」です。

車道を通行している高齢者や子どもの自転車が、後方を確認しないまま道路を横断するといった場面に、とてもよく出くわします。後ろから車が来ていることを全く意識していないような横断をされるので、いつも細心の注意を払っています。

また、歩行者も、右側だけを確認して左側は全く確認しないまま横断する姿がよく見受けられます。

このようなことは、宮川町から倉吉駅までの間は比較的少ないのですが、宮川町から河原町にかけては非常に多く見られます。4車線の幅広い道路よりも、2車線の道路の方が横断しやすいということが原因だと思えます。

昔は中心市街地で交通量も多かったのですが、こういったことはありませんでしたが、今のバス通りは交通量が非常に少なくなっています。歩行者や自転車も「車は通らない」という思いがあるのではないかと思います。ドライバーの皆さんも細心の注意を払って運転してください。

また、交通事故は減少しているようですが、それは信号機やカーブミラー、道路拡幅などの道路状況が良くなっているからだと思えます。反面、例えばスピードが出やすくなるなど、少しの油断が大きな事故につながってしまう場合もあります。

ゆとりある運転を

(田中) ここ近年、高齢者に限らず総じて交通マナーが悪くなっているように感じます。

方向指示器を出さずに曲がる車、救急車が近づいても止まらない車など、自動車学校で学んだことが活かされていない車を多く見かけますが、これらは若い人にも多く見られます。

社会全体にゆとりがなくなっているのかもしれませんが、全体の交通マナーについて、「もう一度見直さなければならぬ時期にきているのでは」と感じるほどです。

皆さんが、ゆとりある運転を心がけてほしいと思います。

鳥取県の特産品「あごちくわ」は、実は、高齢者の交通安全に大きく関係しているのです。



交通安全

あごちくわ

あ 明るい服装と反射材

明るい服装と反射材で、自分の存在を知らせましょう。



ご ご近所みんなて交通安全

交通安全は、まず地域、家庭から始めましょう。





交通安全のプロに聞く―

倉吉市内の交通事故や違反の状況、そして、どうしても交通事故を防ぐことができないのか。倉吉警察署の交通課長岡田敬一警部に話を聞きました。



倉吉警察署交通課
課長 岡田 敬一 警部

Keiichi Okada

は、見通しの良い直線道路であれば、横断歩道でない場所でも、運転者が自分に気づいて車を止めてくれると思います。

しかし、そのような直線道路では、運転者も、脇見をしがちになり、車のスピードも出やすくなります。そうすると、ドライバーが歩行者に気づいた時には、もう遅いといった事故が起こるのです。

日没時には特に注意！

このような事故は、日が暮れるのが早い季節になると多発する傾向にあります。

特に自宅近くの道路では、普段の慣れから安全確認を怠り、死亡事故につながるケースが増えていきます。

また、被害者の自宅近くで発生していることも特徴です。

意外な事故現場

今年になって発生した死亡事故の特徴として挙げられるのが、見通しの良い道路で発生しているということです。

一般的に、交通事故が発生しやすい場所は、見通しの悪い交差点や急なカーブ、歩道が未整備の道路だと思われがちですが、これは、最近の死亡事故に当てはまりません。

また、被害者の自宅近くで発生していることも特徴です。

このような事故は、日が暮れるのが早い季節になると多発する傾向にあります。

日没時、人の視界は急速に悪くなります。車を運転していても周囲の自転車や歩行者に気づきにくくなります。直線道路だと、車のスピードも出がちなります。そういった状況の中で、左右をよく確認しないで脇道から飛び出したり、道路を横断するのは、とても危険です。

運転者には、積極的なライトのハイビーム(ハイ)の使用を呼びかけています。ロービーム(ロー)で照らせる範囲は40mですが、ハイだと100m先まで照らすことができます。対向車などの動きをよく見ながら、ハイからローへの切り替えをお願いします。

鳥取県内の交通情勢

確かに、県内の交通事故による人身被害は、昨年と比較して減少傾向にあります。10年前に比べ、道路事情も改善されていますし、交通安全の普及・啓発活動により、歩行者やドライバーのマナーも向上しています。

しかし、死亡事故は、横ばいの状況で、一向になくなりません。

高齢者が関わる事故が多発しています

最近の交通死亡事故は、被害

者も加害者も高齢者であるケースが多いのが特徴です。

今年10月20日(土)現在の県内交通事故死亡者数は、22人で、そのうちの14人が65歳以上の高齢者です。これは、全体のほぼ6割に当たります。

問われる高齢者の交通マナー

こうした事故は、高齢者が道路を横断したり、信号無視をしたりするなど、交通ルールを守っていないかしたことによるものが多いです。

歩行している高齢者として



今年4月に交通死亡事故があった現場付近。見通しが非常に良い直線道路。



◀反射材は、ホームセンターなどで購入できるほか、交通安全イベントなどで、配布しています。

歩行者は、明るい色の服装を心がけ、反射材を身につけましょう。

もちろん、歩行者は、車道を歩かない、横断歩道以外を渡らない。ドライバーは、スピードを出し過ぎない、脇見をしないなどの交通ルールを守ることが大前提です。

交通安全教室に参加してください

倉吉警察署では、交通ルールの普及・啓発活動として、地域に出向き、交通安全教室を開催しています。

参加者の傾向として、最近は、高齢者の出席が少ないように感じます。

交通安全は、一人一人の問題です。高齢者、特に運転免許証を持つていない人に、どんどん参加してもらいたいですね。運転免許証を持っていれば、免許証の更新の際に交通安全講習会を受講しますが、持ってなければ、最新の交通安全事情に触れる機会がありません。

日常生活の安心・安全に直接つながる話をしますので、できるだけ多くの人に、積極的に参加してほしいと思います。

駐車場での事故

最近、スーパーやコンビニなどの駐車場で、車両同士の事故が増えています。

駐車する際の安全確認を適切に行えば、未然に防げる事故です。ドライバーは、十分に気を付けてください。

また、買い物を終えて駐車場に戻してみると、車が破損している、いわゆる当て逃げの被害も多くなっています。

被害に遭ったら、まず警察に届け出をしてください。また、そのような事故を目撃した場合は、警察への通報をお願いします。



※写真は、イメージです。



取材を終えて

大切なのは、私たちの「心構え」

私たちは、日々の報道をはじめとして、免許証更新時の講習や交通安全運動などの機会を通じて、昨今の交通事故の事情などを知ることができます。ここでは、やはり「高齢者の事故防止」という言葉が一つのキーワードとなっています。

取材の中でわかった高齢者の交通死亡事故の実態や、実際に目で見たと、いつ事故が起こって

もおかしくない道路上での危険な状況など、考えさせられることがたくさんありました。

私たちは、加害者、被害者を問わず、みんなが交通事故に巻き込まれる危険と隣り合わせで生活しています。自分だけは事故に遭わないということは決してありません。

高齢者の事故防止――

今まさに直面している少子高齢社会においては、これまで以上の心がけがドライバーにも歩行者にも求められています。事故が多く発生する交差点やスピードが出やすい直線道路はもちろん、自宅付近でも油断せず、常に危険予測することを心がけましょう。

また、交通ルールは、社会全体で支える仕組みです。ドライバーや特定の年代の人だけではなく、道路を利用するすべての人が交通ルールを守ることが大前提です。安心・安全に、そしてみんなで気持ちよく道路を利用したいものです。

倉吉市を目指す、「事故のない安心・安全なまちづくり」の実現のために最も必要なのは、市民の皆さん一人一人の心がけなのです。

